

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハピスポ堺			
○保護者評価実施期間	令和6年11月11日 ～ 令和6年12月3日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	52	(回答者数)	37
○従業者評価実施期間	令和6年11月20日 ～ 令和6年12月3日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数)	13
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年11月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お仕事体験(中高生への取り組み)・社会参画	毎月一回土曜日に取り組んでいる。この時期から体験することで選択肢の広がりや「できる!」「できた!」を体感し、自信に繋げていく。また、協力企業にも出向き、現場での仕事体験では児童の可能性も広げている。	協力企業を増やす、体験の場を増やしていく。体験時に自信をもって臨めるようSST等を充実させていく。
2	SST・性教育	週1以上のSSTプログラムを準備している。発達や当日参加の児童に合わせて行い、自分も相手も大事するコミュニケーションを核の一つとして分かりやすく動画やロールプレイも取り入れ客観視できるよう工夫。性教育では「大事な自分の気持ちと身体」を核に身体や心の変化等からのアプローチで子どもたちに伝えている。	SSTで学んだことを般化させるために、スタッフの関わりをミーティングや研修で確認・共有していく。
3	外出行事(休校日：土曜日・祝日・長期休暇等)の充実。	主に休校日に実施。外出する事で地域支援・家族支援にも繋がっている。また地域の方々と関わることで児童の可能性も広がっている。外出行事 例：山登り・海水浴・芋掘り・みかんブドウ狩り・潮干狩・プラネタリウム・工場見学…など	外出場の発掘。安全確保のためのミーティングを充実させていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信・ご家族への周知	送迎に出ないスタッフとの関りが少なく、人員数について不安になる保護者が居る。毎月一回通信を発行しているが細かい情報などは発信しきれていない。また個別の情報も必要だと痛感。ホームページの更新も進んでいない。連絡帳では日々の活動や様子について書く体制が整えられていない。	通信ではスタッフ全員の顔写真など掲載して知ってもらい送迎時に安心した保護者との情報交換を目指す。日々の活動や様子については申し送りを充実させたり(担当スタッフとの連携)、電話やlineを使用し安心に繋げていく。
2	避難訓練など・新BCPの周知	BCPについては事業所から保護者への周知が遅れている。また、避難訓練も定期的に行っているが、開催時の詳しい内容は紙面には上げていなかった。	毎月発行の通信へ災害時の児童の引き渡し方法を掲載したが、BCPの周知としては不完全。保護者の安心に繋がるように分かりやすい周知方法を考える。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		ハビスポ堺						
公表日 2024年12月6日								
利用児童数 52名								
37名分回収								
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	29	3		5		事業所の見学や保護者会などのアナウンスの方法を考え、事業所を直接見れる機会を増やしていきたい。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	32	2		3		月一回発行の通信にスタッフ紹介などを行い改善していきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	31	3		3		事業所を見てもらえる機会を増やし、その際に再度詳しく説明した。又、契約時など、もっと詳しく事業所説明も含めて行きたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	33	3		2	1人でゆっくり過ごせる（空間）があれば嬉しい。	一人部屋はあるが、誰でも簡単に出入りが出来る。利用の際の入室を工夫しその時の必要に適した利用が出来るようにする。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	36	1		1		保護者や家族に対して、もっと情報を共有できるようにしたい。連絡ノート以外にもLINEやメールも活用していく。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	34	2		2		連絡ノートに出来た事やプログラムについての説明や目的を書いたり、送迎時に丁寧に説明していく。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	36	2				保護者様がリアルニーズ等言いやすい雰囲気作りやどのスタッフが対応した時も保護者さまの言葉を拾い計画案に反映させていく。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	32	3		3		保護者様が要望等を言える環境づくりやコミュニケーションをはかり具体案に反映させていく。(送迎時・電話・訪問)
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	37	1				毎朝のミーティングや毎日の振り返り会議で支援計画を確認しているが、その内容など保護者様に伝えていく。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	36	1			SST、体操、音楽、集中力アップの中で、色々な体験が出来ている	当日の子どもたちに合わせて同じプログラムでも支援方法や内容を吟味工夫していく。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	18	4	1	14	子ども食堂に行くなど、地域との繋がりも大切にしていると思う。	普段から地域の公園等で関わりを持っているが、それらの活動内容を保護者様に伝えていく。またデイ同士のスタッフの交流も図っており、子ども同士の交流も予定していく
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	36	1				保護者さまへの説明について質問を気楽にできるような雰囲気を作っていく。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	38					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	33	2		3		必要な保護者さまへは情報提供をしているが、研修ではzoomやビデオ研修を検討していく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	35	2		1		送迎時でお会いしにくい保護者さまにはお互いに気になる事や児童の成長等を電話や連絡帳で共有していく。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	31	6		1	送迎時に困っている事の話聞いてくれアドバイスしてくれます。	2～3か月に1回開催している保護者会では保護者同士の安心な環境の中でお互い子育ての相談や助言をしあえる機会がある事を、通信などで引き続き伝えたり、聞き取り等丁寧な関わりを心がけていく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	36	1		1		傾聴や個別支援についての研修を企画してより共感的な支援を目指していく。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	30	3	1	4		2～3か月に1回保護者会を開催しているが、事業所祭りの保護者・兄弟姉妹招待の回数は1～2回にとどまっている。今後出来る範囲で回数を増やす。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	31	3		4		保護者さまには契約時に説明を行っているが、繰り返し通信などでお伝えしていく。子どもにも安心して話せるように日々の雰囲気を作り心をかけていく。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	36	1		1		日々の連絡帳や送迎時の申し送りだけでなく、必要時は電話など直接お伝えする機会も増やしていく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	35	1		2	毎月のお便りで、様子が伝わってきます。	毎月発行している通信などで情報発信しているが、情報が届いていないと思われる保護者さまには電話等で確認。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	37			1		引き続き取り扱いについては、慎重に留意し、スタッフへも定期的に確認していく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	27	3	1	7		契約時に説明している項目もあるが、BCPを元にもう一歩踏み込んで周知していきたい。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	23	4		11		避難訓練は数か月に1度は行っているが、その様子などをより詳しく通信等で伝えていく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	30	1		7		非常時等の訓練(避難訓練)の様子を見える形で保護者へ伝えていく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	30	1		7		速やかに連絡できなかった時や事故状況についての説明不足時は、スタッフの連携と振り返りについて今一度強化していく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	35	2		1		子どもの声や、様子に真摯に向き合い、安心に繋げていく。また、支援研修も充実させていく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	34	3		1	毎回カレンダーを見て予定を確認してから通所しています。	子どもの興味関心に気持ちを寄せ、プログラムや行事設定について考えていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	34	3		1		保護者さまのより蜜に要望を聞き取り、計画支援に繋げていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ハピスポ堺		2024 年 12 月 3 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	6	片方の部屋が多くなっているときは、半分づつ公園等に出てスペースを確保している。	法的な面積は網羅しているが、中高生部屋と小学生部屋で曜日によって偏りが出た場合は片方の部屋が狭く感じることがある
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	6	みんな遊びなどで1対1を広げる工夫や、子ども同士のつながりや関わりを増やす。	法的人員は満たしているが、障害の度合いにより1対1の対応が多い日には職員の配置を考えていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	3	手作り衝立など作り、空間を分ける。	必要なものとそうでないものを分け、いらぬものは倉庫に入れ、支援スペースを出来る限り確保できるように改善。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	4	「静」の部屋「動」の部屋を分けている。	大きな音などは防ぎようがない。活動がダイナミックになりだすと公園へ行くなどしている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	4	1人部屋は用意し、利用時間も一応決めている。	ただ、そのスペースが良い、と言う理由で居座り必要時に使えない事もある。児童に利用方法やルールを一緒に決めてもらう。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10	3	毎日支援会議を夕刻に行い、記録し参加出来た居ないスタッフにも周知している。	記録内容が膨大な日もあり、パートの様に毎日出勤しないスタッフは、読む範囲が多い。記録方法を見直し、短く明瞭に改善したい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	6	ファイリングし事務所で保管。	全体会議などで報告し改善策を皆で考えられる様にしていきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	3	管理者が面談し意見の収集。支援会議や全体会議で、議題を上げる事で意見が言える様にしている。	意見を言いにくいスタッフに対して、管理者のLINEなどに直接言えるなどの配慮をしたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	10	第三者による外部評価を設けていない。	今後は、第三者委員会なども法人で設置していきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10	3	法人でのズーム研修は、事業所がないでの研修を実施している。	2か月に一度の研修を、もっと短期間で実施し、質の向上を図りたい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12	1	その日その日で、プログラム予定表を作成しLINEグループで周知している。	その都度、既読の人数を確認し、再度送信するなど工夫していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	11	2	日々の送迎時、個別、保護者会で確認している。	自主で登所、帰宅する児童の保護者と今以上に連絡をとり、アセスメントの中身を充実させていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	3	毎日、夕刻に支援会議を実施。記録も残り周知に努めている。	スタッフ間で温度差が出ないように、具体的に記録していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	2	一番新しい計画書は個別ファイルの1番後ろに入れるなど、分かりやすく見れる様にしている。	午前中の支援の作戦会議の時に、今一度支援計画の再確認をしながら実施していきたい。

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	6	外出の機会を増やし、その場で の雰囲気やルールに慣れてもら う。スタッフ同志の結婚式にデ イの児童を招待するなど日々の 生活ではなかなか経験出来ない 事を実施。	契約時に、家族からある程度の情報は もらう。成長と共に変化する部分に関 しては確認がしにくい事もある。今後 は事業所で日々の生活にないような経 験をする事で成長の確認をしたい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	4	11月までに、新しい項目を追加 し個別支援計画を作成。特に中 学生・高校生の児童には就労を 見据えた内容などを記載。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12	1	出来る限り、会議などで決めて いる。議事録も作成し周知して いる。	時々、「そう、する様になったんです ね」って言葉が聞こえる。変更時は暫 く変更内容を申し送り周知出来るよう にする。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13	0	一か月の予定表を作る際に、同 じ曜日に同じプログラムが重な らないようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	13	0	集団活動は1日一回15分から20 分。それ以外は個別に活動して いる。自分で予定をたてそれに 合わせてスタッフも児童につ く。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12	1	児童到着前に支援についての作 戦会議を毎日する。児童の担当 など。	祝日や長期休暇などは、すぐに送迎に でるスタッフもいる為、待機スタッ フのみでの作戦会議になる。送迎後、確 り申し送る時間を確保したい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	13	0	毎日、支援会議を実施。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13	0	毎日、支援計画に対してと過 し方を記録。時々、先生からの 話も記録。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13	0	日々の支援会議で計画に沿った 内容で話している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	10	1	自分で予定を決めたり、大型工 作やクッキング、木工などあり。 又、地域の公園や子ども食 堂の活用、大型商業施設での買 い物訓練、一人で楽しめる趣味 の拡大などを支援に組み込んで いる。	ガイドラインを読み込めていないス タッフもいる可能性がある。ガイドラ インの再度読み込みを研修に加え周知 していきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10	2	一か月の予定も日数のみは決 まっているが、利用日はあえて 決めていない。児童が予定表を みて、決めて欲しい。又、デイ でも自分の予定は自分でたてる 事で、したい事を確り表現出来 た居る。	子どもの決定でなく、親の都合で決め られる児童もいる。又、デイでの予定 も宿題は必ずなど、親の決め事優先に なってしまう事もある。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12	0	基本は、管理者や児童発達支援 管理責任者が参加。場合によ り、児童指導員がプラスで参加 する事もある。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	4	地域の学校などは、支援の先生 とLINEを好感し、日々の変化を 伝えあっている。又、訪問看護 の方とも、テンションの状態な どを報告している。	学校の中には、なかなか連携しにくい 所もある。特にセルフプランの児童は 他部署との連携が難しい。セルフプラン の児童には相談支援などの紹介を積 極的に行っていきたい。

関係機関や保護者との連携	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	13	0	学校からの行事予定などは、学校にも声掛けしている。家族からもLINE等で写真をもらう。電話でなくLINEのやり取りをすることでお互い時間外でも連絡出来るようになり、漏れが減った。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	3	相談支援の決まっている児童は情報が多い。	セルフプランに関しては親からの情報がメイン。今後は、親を通じて前の事業所とも連携を図りたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10	2	就労前に、進路先の方と担当者会議を実施。又、卒業後も何年も相談や、その職場に赴き特性やその児童の関わり方について情報を提供（本人や家族、相談員の許可あり。）	一切、担当者会議などもなく移行する児童もいる。今後も当方から連絡をとり、少しでも申し送れる時間を作って行きたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	7	梅花女子大学の先生と懇意なスタッフが時々助言してもらっている。又、堺市で別の団体ではあるが「エンパワメント堺」の方には講師としてスタッフの研修をお願いすることが多い。	地域の機関と連携を取れるように、担当スタッフを決めて実施したい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	7	西区のイベント等では交流有。	西区のイベントで交流できた事業所と今後は体育館など合同で集まれるよう相手側と協議し増やしたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	5	放課後連絡会を中心に、協議会には時間が許す限り参加。数人のスタッフで対応している。	放課後連絡会以外の参加が、出来ない事もある。スタッフの分業を見直し参加率を上げたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12	0	日々の連絡帳、場合によっては電話、又送迎時に報告。その都度の相談にもある程度のスタッフが対応できるようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	5	保護者会で研修する事もある。動画や先輩保護者に講師を頼むこともある。	開催回数が少ない。事業所に来る以外にも、動画の紹介や資料の配布など心がけて行きたい。
保護者への説明	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12	0	契約時に時間をかけ説明。その後も、何かあれば出来る限り分かるまで説明をし理解を得ている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13	0	月の初めに「子どもミーティング」を実施。そこで、子どもからの意見を聴き、可能な範囲で意見に近づけ支援。又、子どもの権利条約について、「なんでやねん双六（子どもの権利条約を学ぶためのツールで子ども家庭庁からインタビューを受けた教材）」などを使い一緒に子どもと学んでいる。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	13	0	簡易な説明を書いたメモも貼付し実施している。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13	0	保護者会、個別、電話など、出来る限り対応している。場合によっては、夜中まで対応し暴力などに発展しないように支援し	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	13	0	保護者会や、個族参加型のイベントを実施している。	

明 等	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13	0	全てのスタッフがまずは傾聴の研修をし初期対応は出来ている。又、その度は管理者を中心に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11	2	毎月、「ハピスポ通信」を発行。2か月先の予定を記載。個人情報に配慮した普段の過ごし方なども、記載。	インターネットの活用が上手く出来ていない。パソコンに詳しいスタッフ中心に定期的な更新をしていきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13	0	契約時に個人情報の取り扱いの同意書で確認。又、ファイルなどは施錠可能なロッカー保管。事業所での相談についても個室で対応。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13	0	ホワイトボードを多めに用意し視覚での対応。日本語が苦手な場合は、支援計画などすべて、ひらがなで記入。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	7	地域の方がプログラムの講師で来ることもある。又、スタッフの知人などが参加する事はあった。	極度の人見知りや、知らない人に対して無理な児童もいるので、不特定多数の招待は難しい。その時々の子どもの状態などが考慮し、少しづつ輪を広げたい。
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	2	契約時に説明している。又、防災センターを活用している。	今後は、BCPを基にもう一歩踏み込んだ内容を周知していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11	1	避難訓練は、事業所からの避難、浜寺公園からの避難など災害が発生した時の場所を変え実施。	従業員にもBCPを読み込んでもらい、今後の防災訓練に活用してく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12	0	既往歴や服薬に関しては契約時に確認。又、その後も変化があれば、写メなども活用し対応。てんかん発作の動画なども家族からいただきスタッフに周知。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	2	契約時にアレルギーの有無を確認。又、クッキング前にも再度確認している。	時々、親も知らなかった、など新しいアレルギーを見つける事もある。その時の対応方法の研修を今後実施していきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11	1	地震対策、角防止などは日々確認。	つつい立てかけたままの長テーブルなどがある。皆で危機管理意識を向上させるためにも研修は続けたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11	1	施設見学時などに、直に見ていただき説明。	施設を見た事ない家族などへの周知を今後検討していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13	0	日々の、支援会議でヒヤリハットあれば、報告し記入。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13	0	「人に勝手に触らない。大切な体」をスタッフも児童も一緒に学ぶ。児童が「これは虐待されているんだ」と自覚し、大人の言い訳に惑わされない様に支援している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	13	0	身体拘束は、未だに実施していない。やむを得ずの手前で支援を工夫し対応している。	